様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１２１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２７２０１７６

研究課題名（和文）開成所刊行辞書・単語集の基礎的研究とその翻訳語の研究

研究課題名（英文）A Fundamental Study on the Dictionaries and the Vocabularies Published by Kaiseijo and Their Translated Words

研究代表者
櫻井　豪人（SAKURAI, Takehito）

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号：６０３３４００９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,100,000円、（間接経費）　930,000円

研究成果の概要（和文）：幕末の洋学研究教育機関である開成所が刊行した英和辞典や西洋語対訳単語集について、編纂方法や収録語の諸相を新たに明らかにした。例えば、刊本として日本初の英和辞典である『英和対訳袖珍辞書』（1862年刊）については、2007年に発見された草稿を分析することにより、底本のPicard英蘭辞典以外にHoltrop・Hooiberg・Bomhoff・Weilandの英蘭辞典類も利用して訳語が導き出されていたことを指摘した。また、蘭日辞典『和蘭字彙』（1855-58年刊）の日本語部分の全てを電子テキスト化することにより、『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』の訳語の例を示すなどの成果も得られた。

研究成果の概要（英文）：This study clarified several features of the compiling processes of the dictionaries and the vocabularies published by Kaiseijo, which was the institute for western studies established by Tokugawa shogunate. For example, by analyzing the draft discovered in 2007, this study pointed out that some Japanese words in Ei-wa Taiyaku Shuchin Jisho in 1862 were translated not only from H.Picard's dictionary, but also from other English-Dutch dictionaries such as those published in the Netherlands by J.Holtrop, T.Hooiberg, and D.Bomhoff, as well as from P.Weiland's Dutch-Dutch dictionary. In addition, by producing an electronic text of all the Japanese translations in the Oranda Jii in 1855-58, this study endeavored to show examples of Japanese words in the Ei-wa Taiyaku Shuchin Jisho which were not extracted from the Oranda Jii.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：国語学　洋学資料　翻訳語　辞書　単語集

１．研究開始当初の背景

幕末の洋学研究教育機関である洋書調所（のち開成所と改称）が編纂した英和辞典、『英和対訳袖珍辞書』初版（文久二 1862 年刊、以下『袖珍』初版）は、刊本として日本初の英和辞典として知られる。『袖珍』は言わば徳川幕府直属の洋学機関が総力を挙げて編纂した英和辞典であり、そこに含まれる訳語は、それまでのあらゆる蘭学研究で蓄積された知識をもとに当てられたと見られるが、具体的な訳語の当て方については不分明な点が多く残されていた。

そのような状況の中、2007 年 3 月に『袖珍』初版とその改正増補版である開成所『改正増補英和対訳袖珍辞書』（慶応二 1866 年刊）の草稿の一部が発見された。両辞書についてはこれまで多くの研究がなされてきたが、これらの草稿は従来の研究を大幅に進展させるものと目された。

2007 年 7 月にこれらの草稿の影印が刊行され、より詳細に研究することが可能となった。実際、それを機に英学史の立場から論文がいくつか発表された。その代表が、堀孝彦「『英和対訳袖珍辞書』初版草稿、再版校正原稿をめぐって—開国の息遣い、まざまざと—」及び三好彰「新発見『英和対訳袖珍辞書』の草稿および校正原稿の考察」であった。（ともに『英学史研究』40、2007 年所収。）しかし、両氏の論文ではまだこれらの草稿の分析が十分に行われているとは言えない状況であった。よって研究代表者は、特にこの草稿に見られる改訂の実態も含めて、開成所刊行辞書・単語集の基礎的研究、およびそこに見られる訳語の研究を行いたいと考え、2010 年度から本研究を開始した。

２．研究の目的

本研究の目的は、開成所から刊行された英和辞書および西洋語対訳単語集の編纂方法を追究し、それらに見られる翻訳語の性質を明らかにすることにある。具体的な研究対象としては、『袖珍』初版とその改正増補版である『改正増補英和対訳袖珍辞書』、開成所刊の単語集である『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』（慶応二 1866 年刊）及びその訳語集『英仏単語篇注解』（慶応三 1867 年刊）を中心に据え、その後明治初年まで数多く出版された同類の単語集への影響を含めて総合的な研究を行い、最終的には開成所の単語集の影印に対照表・索引・解説を付して研究成果として出版することを目的とした。

３．研究の方法

発見された『袖珍』初版の草稿は全 21 葉で、全体の約 3%強しか残存していないが、完成した本の該当箇所と比較してみると少なからず異同があり、編纂初期から中期頃の草稿と見られた。また、その 21 葉も全てが同じ特徴を持つものではなく、底本である Picard 英蘭辞典第 2 版（1857 年刊）を用いている箇所もあれば同辞書の初版（1843 年刊）を用いている箇所もあり、朱書訂正が多くなされている葉もあればそうでない葉もあるなど、いくつかの特徴によって分類できるように感じられた。よって本研究ではまず、『袖珍』初版の底本である Picard 英蘭辞典第 2 版および初版と、『袖珍』編纂時に利用されたことが先行研究で指摘されている蘭日辞典『和蘭字彙』（安政二～五 1855-58 年刊）を用いて分析を行い、21 葉の草稿の分類を行うとともに、Picard 英蘭辞典と『和蘭字彙』でカバーしきれなかった記述について、どのようにすればその記述が得られるのか、当時日本に伝わっていた蘭書（英蘭辞典等）を参照して検証することにした。

次に、『和蘭字彙』の日本語部分を全て電子テキスト化し、『袖珍』初版の訳語を『和蘭字彙』の電子テキストで検索することにより、『和蘭字彙』に見られない『袖珍』初版の訳語を示そうと試みた。ただし、先行研究で指摘されている Medhurst 英華字典（1847-48 年刊、以下 Med.）由来の訳語を除いておく必要があるため、『袖珍』初版と Med.を最初から最後まで目視で比較するという作業を予めしておき、その後『和蘭字彙』に見られない Med.由来の訳語の全体を示した。

以上は辞書である『袖珍』の研究であるが、このほか、単語集である『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』『英仏単語篇注解』等の研究も行った。具体的には、上記の三つの単語集のほか、同系統の単語集である『対訳名物図編』（慶応三 1867 年序刊）『英仏単語便覧』（慶応四 1868 年刊）『通俗仏蘭西単語篇』『通俗英吉利単語篇』『英吉利単語篇増訳』『独逸単語編和解』『独逸訳附単語篇』（以上明治四 1871 年刊）の対照表と索引を作成し、これらの系統の単語集の訳語が一目で比較できるようにすることを目指した。

４．研究成果

本研究の成果は雑誌論文や著書として随時発表してきたので、それらの論文や著書ごとにまとめて記述する。

・「『英和対訳袖珍辞書』初版草稿の諸相と蘭書の利用」（論文⑨、2011年7月）

2007年に発見された草稿を用い、『袖珍』初版の編纂方法の解明を試みた。

従来の研究において、『袖珍』初版の訳語の多くは、底本であるPicard英蘭辞典第2版および同辞書初版のオランダ語から蘭日辞典『和蘭字彙』を引くことにより導き出されたと見られていた。しかしその一致率は、先行研究において全体の約6～7割程度にとどまると報告され、残りの訳語のうちのごく一部はMed.から導き出されたことが知られている

ものの、他の大半の訳語は典拠が明らかにされていなかった。

本論文において、Picard 以外の蘭書、すなわち Holtrop・Hooiberg・Bomhoff・Weiland の英蘭辞典や蘭蘭辞典のオランダ語から『和蘭字彙』を引いてみたところ、発見された草稿においては、実際にそれらの蘭書のオランダ語によって導き出されたと見られる語のあることが確認された。このことにより、上記の『和蘭字彙』との訳語の一致率は、Picard 以外の英蘭辞典類を媒介とする方法を視野に入れて改めて検証しなおす必要が出てきた。またこのことは、初版の編纂方法が依然としてオランダ語に強く依存したものであったことを物語っており、その点は 4 年後の改正増補版と対照的であったと見られる。

・「『和蘭字彙』電子テキスト化による『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語の研究」（論文④、2013年7月）

『和蘭字彙』の日本語部分の全てを電子テキスト化することにより、『袖珍』初版の訳語が『和蘭字彙』の中に見られるか否かについて調査した。例えば以下に掲げる訳語は、いずれも『和蘭字彙』には見られないので、『袖珍』初版が独自に増補した訳語と見られる。（括弧内はその語の早い用例が見られる日本の資料とその成立年である。）

卵巣（『解体新書』1774 年刊）、徴候・酸敗液・肋膜・傷冷毒（『内科撰要』1792 年成 1793-1810 年刊）、膣（『重訂解体新書』1798 年成 1826 年刊）、衛星・引力・重量・圧力（『暦象新書』1798-1802 年成）、環状・膵・腺・凝固・溶解（『医範提綱』1805 年刊）、馬鈴薯（『耋莚小牘』1808 年刊）、熟考（『訳鍵』凡例附録 1810 年刊）、単一・元素（『遠西医方名物考』1822 年序刊）、首府・会社（『輿地誌略』1826 年成）、多島海・品種・岩礁・鎮痛（剤）・鉱石・固定・圧搾（『厚生新編』1811-45 年成）、球根・舎密・酸素・瓦斯・成分・結晶・珪土・酸化（鉄）・光素（『植学啓原』1833 年序刊）、模型（『舎密開宗』1837-47 年刊）、甲板・加農・霰弾・銃槍・床尾（『海上砲術全書』1843 年成 1854 年刊）、蒸気船（『気海観瀾広義』1851-56 年刊）、蒸気車・伝信機（『遠西奇器述』1854 年刊）、恐縮（『航米日録』1860 年成）

以上の訳語の多くは、幕末までの蘭学研究の中で作られた、あるいは新たに用いられるようになった訳語と見られるが、『袖珍』初版はこれらを『和蘭字彙』によらず、独自に取り入れていることが明らかになった。

・「『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語—その 1：Medhurst 英華字典の訳語をそのまま用いている訳語—」（論文②、2013 年 10 月）

『袖珍』初版と Med.を最初から最後まで目視により比較した後、本研究で作成した『和蘭字彙』の電子テキストを用いて Med.から『袖珍』初版に取り入れられたと見られる訳語を特定し、初めてその全体を示した。本論文ではそのうち、Med.からそのままの形で抜き出されたと思われる訳語を示した。それらの訳語の主な特徴は以下の通り。

1. 日本語としてあまり違和感のない語を抜き出している。
2. それまでの日本に存在しない事物や概念の訳語を抜き出している。
3. 『和蘭字彙』では導き出せない博物学関係の訳語を抜き出している。

Med.からそのままの形で『袖珍』初版に取り入れられた訳語の大半は、それまでの日本語の中に存在していた語か、あるいは日本語の中に取り入れてもあまり違和感のない語であった。しかし、当時の日本には無い事物や概念で、既存の日本語では簡明な訳語が当てられない場合には、やむを得ず Med.の訳語をそのまま記したと見られる語もあった。

・「『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語—その 2：Medhurst 英華字典の訳語に改変を加えている訳語—」（論文①、2014 年 4 月）

本論文では、『袖珍』初版の訳語のうち、Med.の表記に改変を加えたと見られる訳語について、その特徴により以下の 8 類に分類して示した。⑴訓読したもの（「擊鐘之人」→「鐘ヲ擊ツ人」,「運棺車」→「棺ヲ運フ車」）、⑵意図的に字句を追加したと見られるもの（「暫時之和」→「暫時ノ和議」,「開元院」→「開元ノ寺院」）、⑶意図的に字句を削除したと見られるもの（「讎敵之意」→「讎敵ノ」,「外科醫生」→「外科醫」）、⑷一部分を近似する言葉やほぼ同義の漢字に置き換えたと見られるもの（「耶穌生日」→「教祖ノ生日十二月廿五日」,「屋頂樓」→「家ノ頂樓」）、⑸誤記あるいは改悪したと見られるもの（「豶豕」→「墳豚」,「木虱」→「水虱」）、⑹字順を入れ替えたと見られるもの（「食肉之獸」→「肉食スル」,「穹蒼」→「蒼穹」）、⑺Med.の訳語の一部を利用して訳したと見られるもの（「買賣説定」→「買賣ノ約定」,「疫症流行民間」→「国ノ流行病. 民間ノ病」）、⑻『和蘭字彙』の訳語と Med.の訳語を組み合わせたと見られるもの（「神使之長」→「第一等ノ神使」,「侍衛」→「王ノ侍衛」）。

改変している訳語は、概ね日本語として違和感の無いよう臨機応変に改変しているといえる。また、Med.において漢字四字で訳されている語を二字で訳すように、なるべく簡潔な訳語を当てようとする傾向も見て取れたが、それは「可能な限り、句ではなく語で訳す」という態度の現れであると見られる。短くしても意味が取れそうな訳語は極力短くし、逆にそのままでは意味が取れないような訳語は訓読したり字句を補ったりする。ただし、そのままでは意味が取れない訳語であっても、長い説明をしなければならないような訳語は、発想を変えて Med.の訳語をそのまま借用し、新しい訳語として採用する。『袖珍』初版が Med.を利用する際に取った

方針は、概ねそのようなものであったと見られる。

・「『対訳名物図編』の訳語について—『増訂華英通語』『英語箋』と一致する訳語を中心に—」（論文③、2013 年 9 月）

『英吉利単語篇』系統の単語集の一本、市川清流編『対訳名物図編』（慶応三 1867 年九月序刊）について、その中の訳語の一部に福沢諭吉編『増訂華英通語』（万延元 1860 年刊）や石橋政方編『英語箋』（文久元 1861 年刊）から抜き出されたと見られる訳語があることを明らかにし、村上英俊編『三語便覧』（嘉永七 1854 年序刊）を参照した可能性があることについても指摘した。

・『開成所単語集Ⅰ　英吉利単語篇・法朗西単語篇・英仏単語篇注解・対照表・索引』（図書①、2014 年 5 月）

『英吉利単語篇』系統単語集の十本、すなわち『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』『英仏単語篇注解』『対訳名物図編』『英仏単語便覧』『通俗仏蘭西単語篇』『通俗英吉利単語篇』『英吉利単語篇増訳』『独逸単語篇和解』『独逸訳附単語篇』について対照表を作成し、それに基づき日本語索引・英語索引・フランス語索引を作成した上で、『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』『英仏単語篇注解』の影印と解説を加えて出版した。その解説において『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』『英仏単語篇注解』の現存諸本の書誌を記し、諸本間での異同状況を明らかにした上で、『英仏単語篇注解』にもわずかながら入木改刻による本文異同があることを新たに指摘した。また、『英仏単語篇注解』の編者である「開物社」について、初めて詳しく考察した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 12 件）

①櫻井豪人「『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語—その 2：Medhurst 英華字典の訳語に改変を加えている訳語—」国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究』33 和泉書院（査読有）pp.268-252、2014 年 4 月

②櫻井豪人「『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語—その 1：Medhurst 英華字典の訳語をそのまま用いている訳語—」近代語学会編『近代語研究』17 武蔵野書院（査読無）pp.35-55、2013 年 10 月

③櫻井豪人「『対訳名物図編』の訳語について—『増訂華英通語』『英語箋』と一致する訳語を中心に—」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』15（査読無）pp.71-81、2013 年 9 月

④櫻井豪人「『和蘭字彙』電子テキスト化による『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語の研究」『日本語の研究』9-3（『国語学』通巻 254）（査読有）pp.17-31、2013 年 7 月

⑤櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(補遺)」『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』14（査読無）pp.119-136、2013 年 3 月

⑥櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(7)」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』13（査読無）pp.185-199、2012 年 9 月

⑦櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(6)」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』12（査読無）pp.187-200、2012 年 3 月

⑧櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(5)」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』11（査読無）pp.125-146、2011 年 9 月

⑨櫻井豪人「『英和対訳袖珍辞書』初版草稿の諸相と蘭書の利用」『日本語の研究』7-3（『国語学』通巻 246）（査読有）pp.17-31、2011 年 7 月

⑩櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(4)」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』10（査読無）pp.145-165、2011 年 3 月

⑪櫻井豪人「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(3)」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』9（査読無）pp.153-171、2010 年 9 月

⑫櫻井豪人「『三語便覧』の訳語と『ドゥーフ・ハルマ』—「人品」部を例として—」田島毓堂編『日本語学最前線』和泉書院（査読有）pp.259-279、2010年5月

〔学会発表〕（計 2 件）

①櫻井豪人「『和蘭字彙』に見られない『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語について—Medhurst 英華字典の訳語との関係を中心に」2012 年 6 月 16 日、近代語学会研究発表会（於白百合女子大学）

②櫻井豪人「『和蘭字彙』電子テキスト化による『英和対訳袖珍辞書』初版の訳語の研究」（シンポジウム「近代語研究の方法と資料」パネリスト発表）2011 年 10 月 22 日、日本語学会 2011 年度秋季大会（於高知大学）

〔図書〕（計 1 件）

①櫻井豪人『開成所単語集Ⅰ　英吉利単語篇・法朗西単語篇・英仏単語篇注解・対照表・索引』港の人、592pp.、2014 年 5 月

６．研究組織

(1)研究代表者
櫻井　豪人（SAKURAI, Takehito）
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号：60334009

(2)研究分担者：なし

(3)連携研究者：なし